JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	加賀四湯・ひなかプロジェクト　―「観光」から、新しい「感幸」へ―　加賀温泉郷地域再生計画案骨子
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ２，29
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8220
Rights	
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

今後の展望

平成26年、長野ー金沢間を結ぶ北陸新幹線が開通する予定ですが、本事業ではこれにあわせて今後5年間の継続的な取り組みを計画しています。

またJAISTと加賀温泉郷協議会が連携することにより、(1)温泉と「自然・歴史文化」、(2)温泉と「医療・健康・美容」、(3)温泉と「食と工芸」、(4)温泉と「伝統芸能」、(5)温泉と「宿づくり」「人づくり」「まちづくり」といった、学術的なアプローチから温泉郷の経済活動に直結する協働が生まれることが期待されています。

■ 継続的な取り組みの展開案

平成21年	加賀四湯のネーミングを北陸3県に浸透
平成22年	加賀四湯のネーミングを北陸3県に定着
平成23年	加賀四湯の新しいブランドの浸透
平成24年	加賀四湯の新しいブランドの定着
平成25年	加賀百万石（金沢）との連泊を浸透させる
平成26年	新幹線開通ー首都圏からの誘客促進

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ
TEL：0761-51-1839 FAX：0761-51-1767 E-mail：dento-secr@jaist.ac.jp

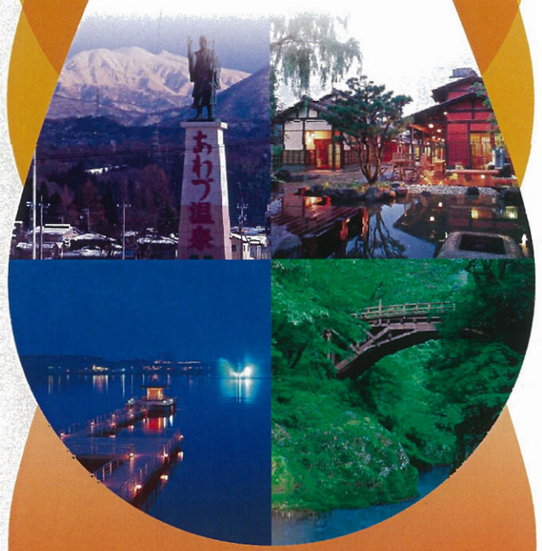
本誌は、文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成プログラムの助成を得て発行しております。

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY 1990
北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES
社会イノベーション・シリーズ 2

加賀四湯・ひなかプロジェクト

ー「観光」から、新しい「感幸」へ ー
加賀温泉郷地域再生計画案骨子



平成20年度、JAISTが開講する「地域再生システム論」講座で、粟津、片山津、山代、山中の4温泉地の観光協会事務局長が加わって「加賀温泉郷グループ」が結成され、温泉郷の賑わい創出を目指す「加賀温泉郷地域再生計画案骨子」をまとめました。

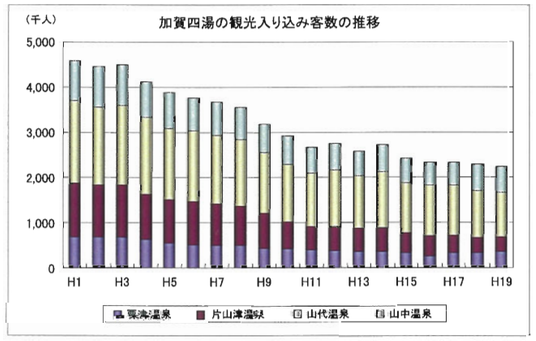
本地域再生計画案は「加賀四湯・ひなかプロジェクト」と名づけられ、加賀四湯を中心に、白山をはじめとする自然風景、山海の食文化等を掘り下げた魅力プログラムを創造するとともに、誰もがのんびりと湯けむりの里を満喫できる魅力プログラムを提案しています。

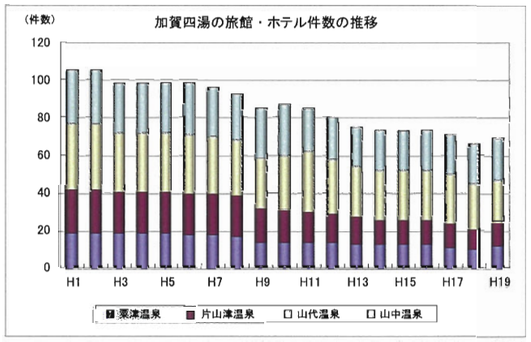
No.29

KAGA ONSEN HINAKA PROJECT

加賀温泉郷の現状と課題

加賀温泉郷は開湯から1,300年の歴史を持つ、北陸を代表する温泉地です。霊峰白山の恵みを受けて、粟津、片山津、山代、山中の4つの温泉地が形成されていますが、観光客数の減少に歯止めがかからず、観光客数は、平成元年の約460万人をピークに、平成19年には約220万人と半減しています。また旅館・ホテル件数は、105件から69件に激減しています。

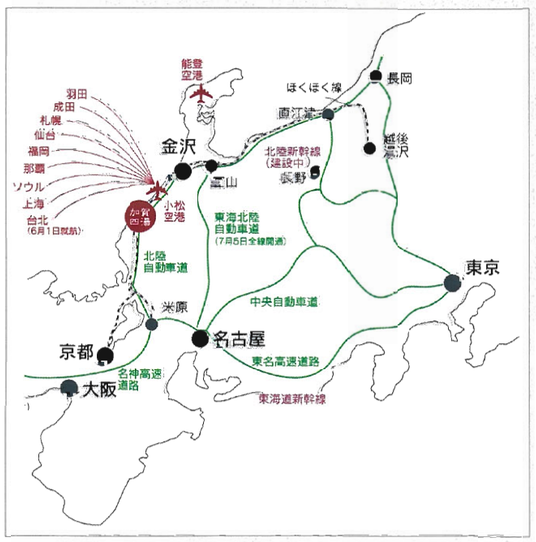




加賀四湯では加賀温泉郷に賑わいを呼び込もうと、昭和45年に加賀温泉郷協議会を設置して以来、さまざまな事業に取り組んできました。

平成20年(7月1日～10月5日)は、「湯にあそび、まちをめぐる。九つの出逢い、ふれあい、ときめき」をキャッチフレーズに、「加賀四湯博」と銘打ったイベントを実施しました。「加賀四湯博」は、「情報発信」「回遊誘発手段」「回遊誘発イベント」の3つの視点に基づき、(1)「かが四湯本」発刊、(2)全国の「加賀」さんキャンペーン、(3)まちめぐりポイントラリー、(4)加賀四湯お祭りバスツアー、(5)連泊キャンペーン、(6)加賀四湯にぎわいイベント、(7)加賀四湯博おったからまつりの7つの事業を実施しました。イベントの結果、対前年比10%アップの目標値469,222人に対し、13.3%アップの483,230人という実績が出ました。また約3割が各温泉地から他の温泉地へ回遊していることが判明しました。

さて加賀温泉郷への国内外からのアクセスに着目すると、広域交通網が目覚しく進展しています。
平成20年6月1日には小松ー台湾定期便が就航し、アジア圏との距離が縮まりました。平成20年7月5日には東海北陸自動車道が全線開通し、中部圏からの入込客が見込めるようになっています。また平成26年度には長野ー金沢間を結ぶ北陸新幹線が開通する予定です。インフラの整備を背景に、4温泉地がスクラムを組み、北陸有数の国際観光圏として躍進することが可能な状況となっています。



「加賀四湯・ひなかプロジェクト」とは

こうした中、長期的な展望に立って着実に加賀四湯の再生を図ろうと、加賀温泉郷グループが事業案を練り上げたのが「加賀四湯・ひなかプロジェクト」です。「ひなか」とは、加賀地域の方言で「昼下がり」を意味します。日中の散策を楽しむ連泊滞在型観光地として、さらに自然豊かな里=いなかを連想させる意味を込めました。

具体的には四湯を中心に、白山をはじめとする自然風景、山海の食文化等を掘り下げた魅力あるプログラム、また誰もがのんびりと湯けむりの里を満喫できるプログラムを提案しています。

「加賀四湯・ひなかプロジェクト」は4つの視点から組み立てられています。1つ目に「地元住民に愛される湯を目指す」ということです。加賀温泉郷はもともと湯治場として地元の住民の方に利用されていました。もう一度その原点に返って、北陸3県のお客さまに愛される湯を目指します。2つ目に「地域資源の「湯」にこだわる」ということです。温泉地の共同浴場を「総湯」と呼んでいるのは石川県だけです。この「総湯」という資源と、白山の恵みである「湯」という資源を活用します。3つ目に「歴史と文化が香る物語を発信」します。各温泉地にはそれぞれ開湯にまつわる伝説があり、長い歴史の中で文人墨客との交流があります。こうした歴史と文化が香るストーリーを収集し、発信します。4つ目に「自立した地域づくり」を行います。このためには自主財源を確保する商品やサービスの販売ツールの充実が欠かせません。

ひなかプロジェクトの核になるのは総湯です。各温泉地に着たら必ず総湯を訪れるような仕組みづくりが課題となっています。現在、各温泉地で総湯のリニューアルオープンが予定されています。今後のひなかプロジェクトの展開に注目してください。そしてぜひ各総湯に足を運んでみてください!

粟津温泉
「新総湯」H20.8オープン

山中温泉「総湯」

山代温泉
「新総湯」H21オープン予定

片山津温泉
「新総湯」H22オープン予定